

令和 2 年度

登録左官基幹技能者認定試験問題 (60分)

関東ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題1 登録基幹技能者の発展段階に関して、最も不適当なものはどれか。



1. ①見習い
2. ②中堅管理者
3. ③職長
4. ④登録基幹技能者

問題2 職業能力基準のイメージに関して、最も不適当なものはどれか。

1. レベル1は、指示された生活習慣を手順に基づき家族と一緒に実施できる。
2. レベル2は、分担された作業を手順に基づいて正確に実施できる。
3. レベル3は、現場管理や工法・技術等について元請管理者と協議し、作業手順を組立て、作業員への確かな指示・調整等を行うことができる。
4. レベル4は、高度な技術力を有し、現場管理や工法、技術等について元請管理者と協議できる。

問題 3 登録基幹技能者制度の活用にあたって、工事現場配置の効果に関して、**最も不適当**なものはいずれか。

1. 品質
2. 上出来と不出来
3. 工事特性
4. 創意工夫

問題 4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、**最も不適当**なものはいずれか。

1. 的確な分析力と判断力を有し、客観的な観点から最良の結論を導き出すことができる。
2. 職務に係る技術提案等を積極的に行い、全体の成果に結びつけることができる。
3. 施工計画の策定に参加し、計画に係る諸事項の決定及びその管理方法について、提案することができる。
4. 現場周囲の諸条件を的確に捉え、客観的な観点から、近隣住民と話し合いをすることができる。

問題 5 登録基幹技能者に必要な資質に関して、**最も不適当**なものはいずれか。

1. 熟達した施工能力を有する。
2. 建設現場において親分的役割を担う者である。
3. 熟達した直接的施工能力を有する。
4. 部下を指揮・指導し、他業種との連絡・調整に務めることができる。

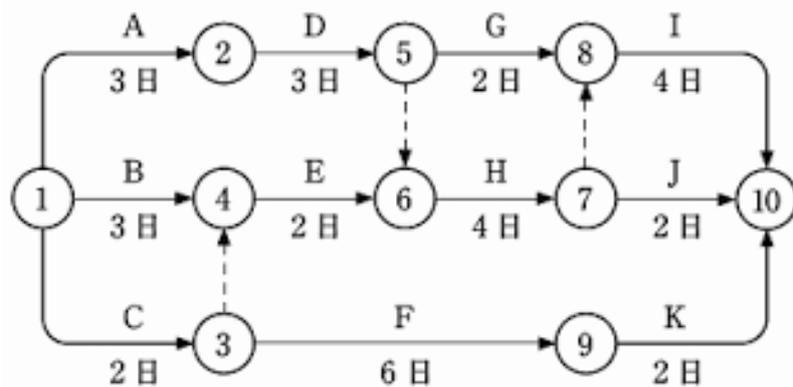
問題6 登録基幹技能者の現場において日常的に実施している業務に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者自身の食事管理
2. 資機材等の手配
3. 施工要領書
4. 出来形の確認・検査

問題7 レベルに応じた技能者の指導・教育に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 部下の自己啓発の意欲を無くすものであること。
2. 部下の成長する条件を考えること。
3. 知識の習得と体験の組合せをつくること。
4. 実施可能な指導方法であること。

問題8 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表の点矢線は、ダミーを示している。
2. この工程表のクリティカルパスは、A-D-H-I である。
3. この工程表における工事の工期は、14 日である。
4. ⑥の最早開始時刻 (EST) は 4 日である。

問題 9 建設業法における建設業の許可に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. 建設業を営もうとする者は、軽微な建設工事のみを請け負う事業者を除き、建設業の許可を受けなければならない。
2. 営業所を 2 つ以上の都道府県に設ける場合は、各都道府県知事の許可が必要である。
3. 下請代金の総額が 4,000 万円以上（建築一式工事の場合は 6,000 万円以上）の工事を下請負人に施工させる建設業者は、特定建設業許可が必要となる。
4. 建設業法において、建設業の許可は、29 業種に区分される。

問題 10 特性要因図作成のためのブレインストーミング (BS) に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. BS は、アレックス・オズボーン氏によって考案された会議方式のひとつである。
2. BS は、集団思考、集団発想法、課題抽出ともいう。
3. BS は、集団でアイデアを出し合うことによって相互交錯の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法である。
4. 人数に制限はないが、5～7 名、場合によっては 20 名程度が好ましく、議題は当日考えることが望ましい。

問題 1 1 近年(一社)日本左官業組合連合会が取り組んでいることに関して**最も不適当な**ものはどれか。

1. JASS 15・国交省の建築工事標準仕様書の改定に伴う仕様の標準化。
2. 既調合しっくいの JIS への採用。
3. (一社)日本左官業組合連合会が推進しているしっくい普及推進プロジェクト。
4. 既調合しっくいは JIS A 6919 として「外装装塗用既調合しっくい」として認定。

問題 1 2. つけ送りに関して、**最も不適当な**ものはどれか。

1. つけ送り下塗りに先立ち、仕上げ厚が均等になるように躯体面の不陸を予め調整する、躯体補修のことである。
2. つけ送りは左官工事の仕様書の対象範囲外ということを、JASS 15 に記載されている。
3. つけ送りの具体的記述は、JASS 15 に記載されている。
4. 不陸調整として行うつけ送りは、1 回の塗り厚を 12mm 以内とし、それ以上あるときは 2 回塗り以上とする。

問題 1 3 左官下地の条件に関して、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 左官の下地は、仕上げ材料と有効な付着強度が得られるものであること。
2. 左官の下地は、仕上げ材料と有害な化学反応を生じないこと。
3. 左官の下地は、仕上げ材料よりも強度・剛性が小さいこと。
4. 左官の下地は、仕上げ材料の施工に適した平面状態、吸水性を有すること。

問題 1 4 軽量鉄骨下地工法での石膏ボードのジョイント部分に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 軽量鉄骨下地工法は、木造でいう横胴縁がないために石膏ボードの水平のジョイントが耐力不足になる。
2. 石膏ボードで横ジョイントを作らないように、天井までの長さの石膏ボードとする。
3. 石膏ボードは2枚張りとし、下張りとは上張りの石膏ボードのジョイントを同一とする。
4. ボード周囲は柱、間柱当たり約 100mm 間隔でビス留めする。

問題 1 5 コンクリート面に二丁掛けタイルを接着剤張りとする場合、セメントモルタルによるタイル下地の施工要領書の提出に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート面を超高圧洗浄とした。
2. 吸水調整材を 4 から 5 倍液とした。
3. 下地調整塗材を CM-1 とした。
4. タイル下地セメントモルタル仕上げ表面を金鍍仕上げとした。

問題 1 6 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コールドジョイントとは、コンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。
2. ジャンカとは、型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
3. 白華とは「ムーブメント」ともいい、レンガ目地、コンクリート等の表面に発生する結晶化した白色の物質のことである。
4. レイタンスとは、コンクリート打設の際、浮き水と一緒に浮上したセメント中または骨材中の微粒子からなる薄い泥状物の層のことである。

問題 17 JIS A 6909（建築用仕上塗材）の仕上塗材の種類と呼び名に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装厚塗材Gとは、内装せつこう系厚付け仕上塗材のことである。
2. 内装薄塗材Cとは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。
3. 外装薄塗材Eとは、外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材のことである。
4. 内装薄塗材Lとは、内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材のことである。

問題 18 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ブリージングとは、練り混ぜ水の一部が骨材、セメント粒子の沈殿に伴って、上にあつまってくる現象で、質量差に起因する材料分離の一種である。
2. メチルセルローズとは界面活性剤、又は食料品などに粘性を与えるための工業薬品として製造されていたものである。
3. セメントモルタルとは、細粒の骨材、粗粒の骨材および結合硬化材を練り混ぜたものである。
4. 壁倍率とは、壁の強さのことで、数値が大きくなる程強くなる。

問題 19 施工管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 安全管理では、品質、原価、工程、環境などについて総合的に計画し、現場代理人だけでなく、経験のある技術者などの意見も参考する。
2. 品質管理とは、設計図書・仕様書等発注者の要求に基づいて施工計画・施工図等を作成し、建設物を管理する。
3. 原価管理では、請負契約と施工計画から材料費、労務費、現場経費などの工事に関わる原価を算出し、実行予算を作成する。
4. 工程管理では、全体工程表から各作業間の調整をして、短期工程を作成する。

問題 2 0 施工計画の目的に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 適切な品質を確保する。
2. 適切な価格で施工する。
3. コンプライアンスを遵守する。
4. 所定の工事期間内に施工する。

問題 2 1 揚重計画に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建築及び他業者と揚重の週間工程表を作成し、毎日の打合せの中で再確認する。
2. どの資材にも対応できる揚重機器を考えて計画する。
3. 揚重機器の効率を考えて計画する。
4. 梱包材の搬出も考えて計画する。

問題 2 2 見積原価の管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 設計図書で不明確な点や、図面間の相違点などがあれば、あらかじめ質疑をする。
2. 積算業務における数量は、見積要項書などに示された参考数量に実勢単価を乗じて算出する。
3. 支給品の有無や、他工区との取り合い部分の施工など、施工範囲を明確化する。
4. 土質、周囲の環境、近隣協定、駐車場の有無等、自社の施工に影響する現場条件を確認する。

問題 2 3 わが国建設業における労働災害の現状について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡する災害である。
2. 死亡災害の原因は、建設工事全体では建設機械による事故が最も多い。
3. 建設業の就業者に対する死亡者の比率は、他産業に比較して高い産業である。
4. 建設業の安全対策が難しい理由のひとつは、雇用期間が短いことが挙げられる。

問題 2 4 各種労働災害防止について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 2.0m の所で施工する足場組立・解体には、作業床を設置する必要がある。
2. 既存建築の解体工事は、石綿による健康障害防止対策を考える必要がある。
3. 居ながらリフォーム工事では、感電やガス爆発に注意する必要がある。
4. 熱中症対策には、WBGT（暑さ指数）を活用することが有効である。

問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 現場では、「4S」に努め、廃棄物は決められた場所以外に捨ててはいけない。
2. 作業員には、保護具の着用・使用の義務が発生する。
3. 複数業者が混在する 50 人の建設現場では、二次下請け業者は安全衛生責任者を選定する必要がある。
4. 新規入場者教育は、労働安全衛生法に定められていない。